

岩手県釜石のラストゲイシャ艶子姐さんが

平成28年1月6日（水）に他界されました。

岩手県釜石のラストゲイシャ伊藤艶子姐さんが1月6日（水）に他界されました。

もう一度、日本お座敷遊び協会主催のお座敷遊び大宴会にお呼びし、艶子姐さんの三味線で「釜石浜唄」をお聞きしたいと思っていましたが残念です。

ラストゲイシャの艶子姐さんは、2011年3月の東日本大震災で命の危険にさらされ、着物も三味線も家も流されてしまいました。艶子姐さんが84歳の時です。

3月末頃、地方紙に艶子姐さんが釜石最後の芸者として米寿まで現役でお座敷に出たかったが三味線も着物も流され、途方に暮れた思いが記事に掲載されていました。

全国の芸者衆を応援することを目的にしている当協会でも何か支援出来ないか考えており、八王子花街の恵姐さんに釜石最後の芸者艶子姐さんが被災したことを話し、何か支援出来ないか相談しました。

恵姐さんからは、な！何と！釜石に行って艶子姐さんに会いたい。と言われ、その段取りを頼まれました。まだ、4月中頃でした。交通網も寸断され、それこそ日本全体が被害の大きさに途方に暮れていた時です。

地方紙に連絡を取り、記者をご紹介して頂き、事情を説明し、記者の方に艶子姐さんに話をしてもらい会いに行っても良いかと確認して戴きました。

艶子姐さんはころよく快諾して戴き、5月の連休に八王子の芸者衆数人と一緒に恵姐さんは車で釜石に行かれました。

避難所の体育館で恵姐さんは艶子姐さんに練習用の三味線や着物を渡されました。

その練習用の三味線を受け取った艶子姐さんはその場で「釜石浜唄」を唄われました。

その光景はテレビに取材され全国に流れており、私も東京でテレビを見ていました。

そこから、釜石花街の最後の芸者艶子姐さんと八王子花街の交流が始まりました。

2011年8月に当協会として開催したお座敷遊び大宴会に艶子姐さんを東京へご招待し、お座敷に復帰して戴きました。その時、艶子姐さんと八王子花街の芸者衆による「釜石浜唄」の共演が実現しました。その後も、艶子姐さんと八王子芸者衆との交流は続き、

2015年の12月にも八王子の芸者衆が艶子姐さんに会いに釜石に足を運んでいました。

岩手県の釜石花街は消滅しました。最後の芸者艶子姐さんの他界と共に釜石花街は消滅しましたが、釜石花街の芸は八王子に引き継がれました。岩手県釜石で釜石花街の芸を楽しむ事は出来なくなったかもしれませんが、東京の八王子花街で釜石花街の芸を楽しむ事が出来る。

本来であれば艶子姐さんが他界したことで「釜石浜唄」などのお座敷芸も伝承されること無く、消滅しました。

2011年5月から続いていた釜石花街と八王子花街との花柳界の常識を超えた交流により釜石花街のお座敷芸が八王子花街に伝承され、今後も釜石花街の芸を八王子花街の芸者衆が連綿と引き継いで行きます。

艶子姐さんの芸をもう一度見られなかったことは残念ですが、本当にありがとう。

そして、さようなら。ご冥福をお祈り申し上げます。

平成28年1月12日

日本お座敷遊び協会

会長 鈴木正秋